

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	四天王寺和らぎ苑 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 10日		令和7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 10日		令和7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各専門職による発達支援	保育士・療法師(PT/OT)・看護師による専門職が配置されているが、保育場面において、それぞれの専門職の視点で、適切な支援を実施しています。保育場面で子どもの発達のフィードバックを行い、今後の課題や取り組みについて情報を共有を行っています。	各専門職員が必要な研修に参加し、スキルアップを行うことで、知識と経験に基づいたより質の高い支援を提供できるようにします。また、担当者同士の連携を深めていき、それぞれの専門知識を共有していくことで、個々の課題解決と目的達成に向けて取り組んでいきます。
2	個別の発達に基づいた計画と、保育内容の実施	様々な特色をもった子どもたちがいる中で、個々に応じた支援を計画し実行しています。	個別支援計画に基づいて、担当者全員が参加する個別カンファレンスを実施して、更に利用者に対する認識を深めながらも、個々の必要な支援を計画し実行できるようにします。その中で職員間での情報共有を行い、目的を共有してそれぞれの専門職が適切な支援を提供できるようにします。
3	個別対応した様々な支援と受入対象児の広がり	それぞれの家庭環境や発達状況に応じて、親子通園・単独通園・送迎支援・移行支援を行っています。また、重症心身障がい児や医療的ケア児・肢体不自由児など、様々な障がいをもった子ども達を受け入れて、個々に応じた支援を提供しています。	それぞれの状況を把握しながら利用者ニーズに応じる為、柔軟な対応をして、個別に必要な新たな支援を提案していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時等の対応についての周知	施設内での安全・感染対策におけるマニュアルは策定されていますが、職員間も含めて周知を再度徹底する必要があります。保護者に対しては、具体的な説明ができていなかったことや、利用頻度や利用方法が異なり、避難訓練や防災対策のイベントに参加できていないことも要因であると考えます。	より具体的な内容を周知できるように、全体に向けてのアナウンスを行いながらも、防災イベントや、避難訓練週間に参加することで意識を高めていきます。また、個別に応じた防災対策など、各家庭の様子をヒアリングしながら、避難準備について考える機会を設けていきます。
2	地域の保育所や認定こども園・幼稚園との交流	重度な障害をもった児童に対しては、健康管理が基盤であり、感染対策等と環境変化に適応が必要になることや、個別のプログラムが優先される為、実施計画が困難となっていると考えています。	どのような方法でなら関わり合い、適切に効果的なやりとりができるのかを計画していくことを並行して、地域の施設にアプローチして関わる機会を設けていき、実施に向けて計画を進めていくことが必要です。また、他の事業所と情報交換していき、実際に実施している施設とコンタクトをとることも考えていきます。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 四天王寺和らぎ苑

公表日 令和 7 年 4 月 21 日

利用児童数

12名

回収数

9名

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	78%	11%	0%	11%		必ず事業指定基準に沿って職員数を配置し、更にご利用人数や内容に応じて、専門職を配置することがあります。基準の職員数でも、適切な支援ができるよう、努力致します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	89%	11%	0%	0%		今後とも保育士・看護師・療法士の専門職によって適切な支援を実施し、子ども一人ひとりに応じた支援に繋げていくことで、ご利用者全員に満足頂けるよう努力致します。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	22%	11%	56%	11%		毎月のイベントでは、各ご家庭や利用者同士が共に活動参加し、交流も目的の一つとしていますが、地域において特定の保育園や幼稚園との交流機会については、今後検討していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%	0%	0%	0%		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%	0%	0%	0%		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	89%	11%	0%	0%		親子通園時には、保育時間中のフィードバックや、相談等を各専門職で受付することで、育児支援の充実を図っています。また、毎月のイベントでは、子どもの発達の知識や、防災についてや福祉機器の紹介など、幅広い情報提供を行い、家族支援に繋がっています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	100%	0%	0%	0%		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%	0%	0%	0%		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	78%	11%	0%	11%		親子通園事業として、保護者同士が交流できる機会を設けています。また、毎月のイベントでは、各ご家庭での交流機会や、きょうだいにおいては、夏祭り・クリスマス会など様々なあそびの場を設けています。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%	0%	0%	0%	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	100%	0%	0%	0%	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	89%	0%	0%	11%	個人情報の取扱いに関しては十分に注意し外部流出を防ぐ取り組みを継続して実施していきます。また、必要に応じた各関係機関との情報共有の際には、ご利用者様の承諾を得て実施させていただきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	33%	0%	11%	56%	施設全体で各種マニュアルは策定され、委員会による見直し等行い、法的研修として必ず職員は年間決められた研修に参加しています。ご利用者様に対しは必要に応じて、情報提供行ってきましたが、広く周知して頂く為の機会を設けていけるようになります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	33%	0%	11%	56%	施設内では定期的に避難訓練を実施していますが全員に周知できるように、ご利用日でない場合も個別対応して、緊急時の対応について共有できるようにします。また、防災イベントや避難訓練週間を通して、より身近に防災対策や避難意識を高めていけるようになります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	78%	0%	11%	11%	常に安全を一番にした環境を整え、活動内容によっては、留意点を伝えるなどして、安全を意識した支援を心がけています。今度も、個々に必要な安全配慮について、ご利用者様と共有できるように努めます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	56%	0%	11%	33%	昨年度インシデントレポートとして、5件の報告を致しました。重大な事故につながる可能性は無かった事案ではありましたが、発生状況・直後の対応と結果・具体的対策を上げて、必要に応じて要因分析を施設全体で検討する対策を講じています。事故等発生した場合に適切な対応ができるよう今後とも努めて参ります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	89%	0%	0%	11%	安心安全な環境を整え、通園事業に参加できるように努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	89%	0%	0%	11%	お子様も保護者の方も、楽しく参加できるように努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 四天王寺和らぎ苑

公表日 令和 7 年 4 月 21 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		利用人数が多いときは、隣接した部屋に分けることや、保育内容によって場所を変えるなどで実施しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	担当する職員が、様々な専門的な視点で、療育を提供できるようにしています。	保育専任の職員体制を充実させていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		対象児童の枠が広がったが、現環境でも、足台を設けることなどして、適切な環境になるよう環境整備をしています。	対象児童の枠が広がったことで、子ども用の手洗い場がないなど、対象児に応じた環境設備を行っていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	隣接した部屋を利用したり、内容に応じて施設内のスペースを活用できるようにしています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		研修会に積極的参加できる環境であり、自苑でも外部向けの研修会を実施するなど、職員の研修体制は整っています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		支援開始前に介入する職員全員が集まって、支援内容について情報共有をおこなっています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	支援実施直後や業務終了前、または翌日の朝礼にて振り返りを含めた情報共有を行い、必要に応じて時間を設けて実施しています。	特定の担当者だけにならないように、職員間での情報共有を図っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	保育場面において、その都度必要に応じた支援を共有し、適切な見直しを行っています。	個別支援計画の見直し期間だけでなく、その都度実施している為、個別支援計画に反映が遅れて、共有にタイムラグがでないように職員間での連携を深めています。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	適切な役割分担を行いその中で情報共有することで、子どもの状況をよく理解した担当者が、適切に対応できる環境づくりを行っています。	特定の担当者は限られている為、スケジュールを調整しながら適切な対応ができるようにします。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	必要に応じて適切に関係機関との連携をしながらも、特に医療関係機関と連携し、健康管理を行っています。	細かな情報共有ができるように、積極的なアプローチを行っています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	これまで様々な児童を個別対応して、地域に向けた移行支援を行ってきました。その中で得た関係機関との繋がりから、今度も継続して適切な支援を行っています。	これまで以上に、新たな関係機関とのつながりを求めていき、個々に応じた適切な支援ができるようにします。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	4		個々の事案で必要に応じて支援センターとのやり取りを実施していますが、積極的に繋がっていき、相互の情報共有を図っていくようにします。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	6		毎月のイベントでは、様々児童や家族と交流する場はありますが、特定の地域の保育園や幼稚園との繋がりを今度検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		親子通園事業においては、保護者との情報共有や発達促進にたいしての課題について共有できる場面を設けています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保育場面や午後の自由保育時間などで話ができる機会を設けることや、相談しやすい雰囲気がつくれるよう心がけています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	今年度で2回目となるキッズパークでは、地域の事業所や関係機関とも協力し、広く地域の利用者が参加できるイベントを実施し、催しやゲーム・福祉機器の紹介など行っています。また、地域のイベントに職員が施設で参加しています。	職員間で認識を共有していきながらも、地域へのアプローチを深めて行きます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	2		施設全体で各種マニュアルは策定され、委員会による見直し等行い、法的研修として必ず職員は年間決められた研修に参加しています。ご利用者様に対しては必要に応じて、情報提供行ってきましたが、広く周知して頂く為の機会を設けていけるようにします。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2		施設の安全マニュアルに則って、環境整備を整えていき、必要な訓練を行っていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	2		個々の把握は、保護者からの事前アンケートやカルテを基に情報を得て、適切に情報を共有できるようにします。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		インシデント報告によって、発生状況・直後の対応と結果・具体的対策を上げて、必要に応じて要因分析を施設全体で検討する対策を講じていることについて、ご利用者様にご理解頂けるよう発信してまいります。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6				